

にかほ

編集・発行 / 秋田県仁賀保町役場

5/1

No. 1401
毎月1日・15日発行



今月の主な内容

特集 現代子育て事情	2 ~ 5
秋田わか杉国体ニュース	7
まちの話題 / 町内小学校で入学式ほか	8 ~ 9
齋藤あいさんの笑顔に会いたい	10
暮らしの情報	14 ~ 15

春が来た

4月14日、まだ所々に雪が残る釜ヶ台地区で水芭蕉が花を咲かせていました。

釜ヶ台小中学校にほど近い湿地に花開いた水芭蕉の周りには、下校途中の子どもたちが集合。ようやく訪れた春を満喫していました。

子どもを生き育てる喜びや悩み 現代子育て事情



移動おもちゃライブラリー(昨年7月)

アンケート調査に
647人が回答
ご協力ありがとうございました

町では、地域の皆さんの子育てに関する生活の実態や意見、要望を把握するため、0歳から小学3年生までの児童の保護者を対象にアンケート調査を実施しました。

調査地域 町内全域
調査時期 平成15年10月

種別	就学前 児童のいる 全世帯	小学校 1～3年生 児童のいる 全世帯
配布数	654	367
回収数	392	255
回収率	59.9%	69.5%

少子化が急激に進んでいます。この傾向が続くと、子どもたちの自主性や社会性が育ちにくくなるだけでなく、現役世代の負担増や社会の活力低下など、社会全体に与える影響は計り知れません。こうした中で、家庭での子育てを基本に、行政・企業・地域社会がそれぞれ役割をもって進める「子育て支援」の方向性を示したのが、今年三月に策定された「仁賀保町次世代育成支援行動計画」です。

アンケート調査結果

就学前児童編

84% 子どもの身の回りの世話を主にしているのは「母親」

同居家族の人数が「4人から7人」という世帯が7割を占める中、子どもの身の回りの世話を主にしているのは、「母親」(84%)で、次いで「祖父母」(12%)となっています。

83% 保育サービス利用の8割が保育園と幼稚園

平日の保育サービスを実際に利用しているのは全体の7割の世帯で、保育園と幼稚園の利用がそのうちの8割以上を占めています。希望と利用の状況はほぼ一致していますが、幼稚園が終了する時間以降は、親族や知人が子どもを見る割合が増えます。

全体的に保育サービスに対する利用者の満足度は高いようですが、「行事」や「保護者間のネットワーキング」にやや不満を感じている保護者が多いようです。

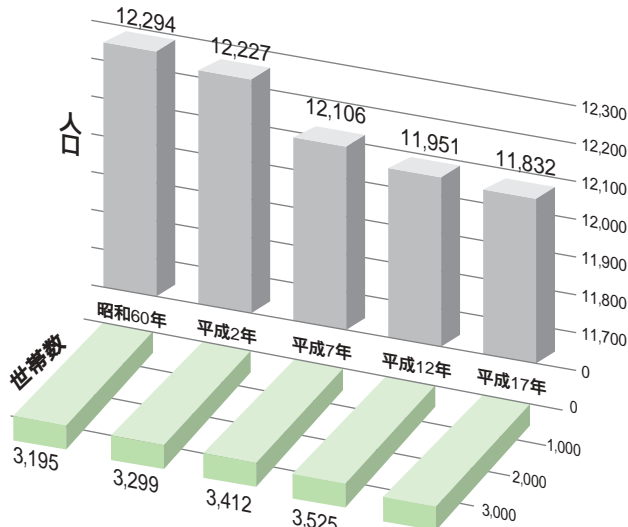
53% 「子どもを家族・親族以外に預けてリフレッシュしたい」

半数以上の保護者がリフレッシュを希望しており、そのうちの8割近くが月1回〜2回程程度、日帰り旅行や会食などで気分転換を図りたいと考えています。

86% 平日の保育サービスを希望する理由は「就労」

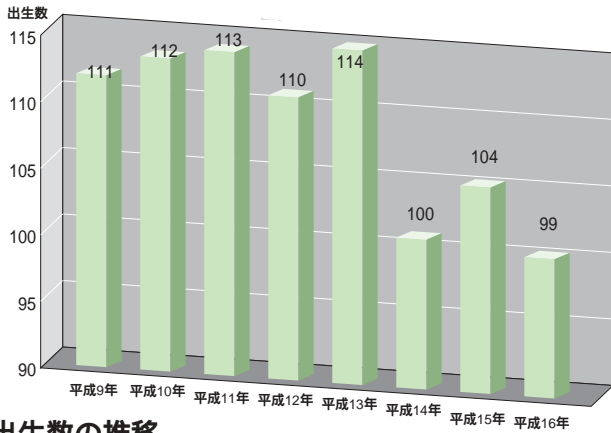
約半数の世帯が平日の保育サービスを希望、うち8割が「週5日〜6日の利用」を希望しています。理由は「現在就労している」(70%)が最も多く、「就労予定」(7%)、「そのうち就労したい」(10%)を加えると9割近くを占めます。

次世代育成支援 ニーズ調査の結果から



人口と世帯数の推移

(国勢調査。平成17年のみ3月末現在住民基本台帳より)



出生数の推移

少子化と核家族化

わが町では総人口の減少とともに少子化の傾向が顕著です。平成7年度に136人だった新生児の出生数が、平成16年度には99人にまで減少し、平成7年を境に老年人口(65歳以上)が年少人口(14歳以下)を上回っています。

一家あたりの世帯構成人員数は3・39人と、全国平均や県平均に比べやや多いものの、世帯数が年々増加しており、核家族化の進行が明らかです。

こうした総人口の減少や少子高齢化・核家族化の傾向は、今後ますます進むものと思われる。

48% 「子育てに不安感や負担感などを感ずる」

「非常に感じる」(8%)と、「何となく感じる」(40%)の両者で5割近くを占めています。

36% 「子どもを叱りすぎるような気がする」

子育てについて日常悩んでいることや気になること。他には、「病気や発育・発達」(32%)、「食事や栄養」(32%)など。

33% 「自分の自由な時間が持てない」

保護者が感じている自分自身の



悩み。他には、「子育てに出費がかさむ」(33%)、「身体の疲れ」(17%)など。

36% 「子どもと接する時間が少ない」

仕事と子育ての両立で大変に感じていること。他には、「急な残業」(31%)、「緊急時に子どもを見る人がいない」(23%)など。

73% 子育ての悩みや不安の相談相手は「配偶者」

他には「親・兄弟姉妹」(70%)、「隣近所の知人・友人」(59%)などとなっています。

また、子育てに関する情報の入手先は、「隣近所の知人・友人」(59%)、「親・兄弟姉妹」(65%)、「保育所、幼稚園、学校」(53%)となっています。

40% 「機会があればサークルなど自主活動に参加したい」

自主活動に参加している方はわずか(5%)ですが、「機会があれば参加したい」という方は4割おり、参加意向は強いようです。

行政に望む活動支援は「活動場所の提供」(64%)、「情報発信やPR等」(28%)など。

58% 「雨の日に遊べる場所がない」

家の近くの遊び場について感じていること。他には、「遊具が充実していない」(33%)、「近くに遊び場がない」(23%)、「同世代の子どもがいない」(15%)など。

39% 「トイレがオムツ替えや親子での利用に不便」

子どもと外出する際に困ること。他に「小さな子どもとの食事に配慮された場所がない」(39%)など。

70% 「保育所や幼稚園の費用負担を軽減してほしい」

町に期待する子育て支援は、保育所や幼稚園の費用軽減(70%)、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所」(70%)、「医療機関の整備」(48%)など。



アンケート調査結果

小学校児童編

(1年～3年生)

88% 同居している家族は「4人」(7人)

就学前に比べ兄弟姉妹の同居が増えるようです。普段子どもの身の回りの世話を主にしているのは「母親」(88%)で、次いで「祖母」(11%)となっています。

7% 「平日に放課後児童クラブを利用したい」

平日、放課後児童クラブの利用を希望しているのは19人(7%)ですが、実際に利用しているのは8人(3%)に過ぎません。利用を希望している方のほとんどが、「就労」をその理由としています。

68% よく利用する公共施設は「公園」

子どもたちがよく利用する公共施設は、「公園」(68%)、「図書館」(29%)、「体育施設」(27%)など。

52% 「地域活動やグループ活動に参加したことがある」

「今後参加させたい」(25%)の方々を含め、具体的に参加させたいと考えているのは、「スポーツ活動」(52%)、「子ども会など青少年団体活動」(40%)、「キャンプ等の野外活動」(34%)など。

75% 「雨の日に遊べる場所がない」

雨天時の遊び場の不足を感じている方が、就学前に比べて多くなっています。他に「遊具が充実していない」(32%)、「近くに遊び場がない」(20%)、「遊び場周辺の道路が危険」(18%)など。

53% 「おもちゃライブラリーを利用している」

主な子育て支援サービスの認知度や利用状況は次のとおりです。

- 「おもちゃライブラリー」
- 認知度(91%) 利用状況(53%)
- 「保育園・幼稚園の園庭開放」
- 認知度(80%) 利用状況(33%)

● 「親子リフレッシュ教室」

認知度(51%) 利用状況(12%)

52% 「子育てに不安感や負担感などを感じている」

「非常に感じる」(10%)と、「何となく感じる」(42%)の両者で5割以上を占め、就学前よりも多くなっています。

悩みや気になることとしては、「子どもの教育」(37%)、「友達付き合い」(31%)が就学前に比べて上位となっています。

33% 「子育てで出費がかさむ」

保護者が感じている自分自身についての悩み。他に「自由な時間が持てない」(20%)、「身体の疲れ」(17%)など。



33% 「子どもと接する時間が少ない」

仕事と子育てを両立させるうえで大変だと感じていること。他に「急な残業」(25%)、「緊急時に子どもを見る人がいない」(20%)など。

78% 子育ての情報は「隣近所の知人・友人」から

子育ての悩みの相談相手は「配偶者・パートナー」(78%)が、また、子育てに関する情報の入手先は「隣近所の知人・友人」(75%)が、それぞれ就学前に比べて割合が大きくなっています。

2% 「子育てに関するサークルなど自主活動に参加している」

自主活動に参加している保護者はわずか2%で、「機会があれば参加したい」(29%)を含めても3割程度と、参加意識は低いようです。

33% 「子連れで出かけやすく楽しめる場所を増やして」

町に期待する子育て支援は、「親子で楽しめる場所を増やしてほしい」(33%)、「医療機関の整備」(26%)、「保育所や幼稚園の費用軽減」(26%)などが上位を占めています。

主な子育て支援メニューをご紹介します

地域における子育て支援

通常保育(認可3保育所)

延長保育(実施3施設)

休日保育(実施予定なし/今後検討)

学童保育(小学1~3年生対象)

/仁賀保幼稚園内「夢ハウス」

乳幼児健康支援一時預かり事業

(実施予定なし/今後検討)

一時保育(にかほ・つばみ・小

出の各保育園)

仁賀保町子育て支援センター

保育園・幼稚園・ポランティア

等の連携による情報誌の発行や

育児相談に応じています。

乳児保育(つばみ・小出保育園)

ポランティア活動(町内3団体)

子ども会・少年会・スポ少等の

活動支援

おもちゃライブラリー(社会福

祉協議会/月3回)

子育てサークル(仁賀保幼稚園

内「わいわいくらぶ」)

母性や乳幼児の健康確保・増進

妊婦健診(各医療機関)

乳幼児健診(スマイル)

移動親子歯科健康教育(「移動

おもちゃライブラリー」と併催)

親子リフレッシュ教室(社会福

祉協議会/年3回)

心身の健やかな成長のための教

育環境・生活環境の整備

保育所地域活動事業(にかほ・

小出保育園)

地域福祉活動を行うために、世

代間交流、異年齢児交流、育児

講座などの特別保育科目を実施

児童遊園地の整備費を補助

集落による用地や遊具等の取得

費、公衆便所や防護柵の建設費

を町が一部補助

子どもの安全確保と細かなケア

チャイルドシート購入補助事業

購入費の半額(限度額1万5千

円)を町が助成

「こども110番の家」(通学

路周辺/町内82か所)

児童虐待防止ネットワーク(今

後、設置予定)

障害児保育事業(にかほ・小出

保育園)



肉声での子育てを

- 子どもたちはお話が大好き -

仁賀保町次世代育成支援行動計画策定地域協議会委員長
新田 協子さん(小出小学校長)

子どもたちは絵本を読み聞かせてもらったり、お話をしてもらったりすることが大好きです。自分で読めるようになってからもです。何度聞いたお話でもです。

それは、子どもたちに身近な父母や祖父母、保育士、先生たちのあたたかい肉声にどっぴり抱かれる心地よさ、安心感があるからではないでしょうか。それまで泣いてぐずっていた子ども、お話が始まると自然に泣き止んで、知らず知らずのうちにお話の世界に引き込まれている姿を何度も見てきました。

生命が母のおなかに宿ったときから父母の肉声で語りかけ、生まれて言葉を覚えお話できるようになってからも、読み聞かせてほしいものです。

女性も社会に出て働くようになったことで、それまでずっと「子育ては母親の仕事」のように思われていたことが、「子育ては父母が協力して行うものだ」という基本に戻ってきていることは喜ばしいことです。子どもは、父母のもとに生まれてきたのですから、当然のことと言えます。そしてそれを地域社会・行政・企業が支えていくことで次世代を担う子どもたちが健全に育つのです。

忙しい時こそ、子どもを抱きしめ、肉声で絵本を読み聞かせたり、お話ししたりするひとときをできるだけ設けてほしいと願います。



開票事務の様子

当町の投票率は64.08%

寺田典城氏が3選果たす／秋田県知事選挙

任期満了に伴う秋田県知事選挙が四月十七日に行われ、即日開票の結果、現職の寺田典城氏が三選を果たしました。

当町の投票率は、前回(平成十三年)を一六・四ポイント下回る六四・八パーセントでした。

投票所別投票者数

投票所	投票者数
第1投票所(勤労青少年ホーム)	562
第2投票所(むらすぎ荘)	321
第3投票所(三森分館)	409
第4投票所(鈴分館)	518
第5投票所(室沢分館)	639
第6投票所(琴浦分館)	498
第7投票所(両前寺分館)	186
第8投票所(院内分館)	369
第9投票所(馬場分館)	276
第10投票所(杉山分館)	235
第11投票所(釜ヶ台はんの木)	207
第12投票所(百目木分館)	286
第13投票所(小出けやき)	294
第14投票所(畑分館)	247
期日前投票所(むらすぎ荘)	982
計	6,029

【仁賀保町開票結果】

候補者別得票数

谷口賢一郎(無所属・新)	462票
寺田典城(無所属・現)	3,250票
佐々木良一(日本共産党・新)	305票
佐藤正一郎(無所属・新)	1,946票

投票結果 【 】内は前回(平成13年)の数値

有権者数	9,408人【9,513人】
投票者数	6,029人【7,622人】
有効票	5,963票【7,528人】
無効票	66票【94票】
投票率	64.08%【80.12%】

4月8日、国が告示 「にかほ市」正式決定

四月八日付の官報(4070号)において、仁賀保町、金浦町、象潟町を廃し、その区域をもって「にかほ市」を設置するという「市町の廃置分合」が総務大臣から告示されました。

この告示により、三町合併にかかわる法的手続きがすべて完了、十月一日の「にかほ市」誕生が正式決定しました。

臨時議会

四月十九日、「第三回仁賀保町議会臨時会」を招集、五議案が原案どおり可決されました。

議案第37、39号

専決処分の承認を求めることについて

市町村合併に伴う秋田県土地開発公社定款の一部改正と、平成十六年度仁賀保町一般会計及び介護保険事業特別会計の予算補正について、専決処分したことを報告し承認されました。

議案第40号

工事委託協定の締結について

仁賀保運動公園整備事業について、今年度予定されているサッカー

一場建設工事の施工管理・検査等の業務を委託するものです。協定金額は一億三千六百万円、協定の相手方は独立行政法人都市再生機構東日本支社長中川忠です。

議案第41号

平成十七年度仁賀保町一般会計予算補正について

既定の予算総額に歳入歳出それぞれ八千五百万円を追加し、補正後の予算総額は四十九億三千八百万円となりました。

三町合併に向けた電算システム構築に連動して、歳入では特別地方消費税と財政調整基金繰入金を増額したほか、合併推進事業債を新たに追加、歳出においても三町分のシステム導入費総額二億五千五百万円のうち、当町の負担分八千五百万円を追加しました。